



TITLE:

学内LAN(KUINS)完成と図書検索デ モ

AUTHOR(S):

CITATION:

学内LAN(KUINS)完成と図書検索デモ. 静脩 1990, 26(3): 15-16

ISSUE DATE:

1990-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37065>

RIGHT:

今回の機器更新では、おもにハードウェア面に重点をおいて、コンピュータの処理能力や容量を約2倍、端末の台数を約4倍に増強し、また、ソフトウェア面では学部や研究所などの教室・研究室に既に設置されている端末（TSS端末）から学内の目録データを、利用者が直接検索利用できるシステムを導入する計画です。

すでに館内の利用者が目録検索するための端末も、2台から6台に増設されて毎日フル稼働しています。その目録データを作成するための端末は、学内の学部や研究所の図書館（室）に50台以上設置しました。今まで端末が少なく、目録データの作成が思うように出来なかった問題は、これでひとまず解消されることになります。これからは、目録システム利用のための研修を受けた職員が順次目録データの作成に従事し、全学の受入図書ほとんどが目録データベースに入力されることに

なります。

また、本図書館のコンピュータには、本学を含めて近畿北部3県（滋賀、京都、奈良）の国立7大学のうち6大学の目録データが入力されており、地域目録データベースを保有する、全国でも特徴あるシステムとなっています。これは、急増する図書や雑誌の文献情報の分担収集や相互利用の基礎となるもので、今後大学図書館が、高度化・多様化する利用者の情報要求に応じて行くための大きな手段の一つになります。

これからは、更新後のシステムの安定運用と質的向上、これまでにカード化されている目録のデータベース化などに向けて、システムの開発・運用を図るとともに、つぎの機器更新をめざしたシステムの評価と見直し、市場調査などが大きな課題となります。

学内 LAN（KUINS）完成と図書検索デモ

本学では、昭和62年度より学内の情報通信を円滑に行うためLAN（Local Area Network）の建設を進めて来ましたが、去る2月20日、3年間に渡る第一期工事の完成を祝賀して記念式典が開催されました。

名称を京都大学統合情報通信システム（Kyoto University Integrated Information System）、略称を英文名の頭文字を取ってKUINSとといいます。KUINSでは、コンピュータなどのデータ通信はもとより電話、ファクシミリ、画像などマルチメディアの通信が可能となるよう設計されており、近い将来実現されるISDN（Integrated Services Digital Network）にも対応できるようになっています。

式典には、学内外から150名ほどの来賓、関係者が参列し、またKUINSを利用した様々なシステムのデモンストレーションや機器の展示が行われました。本部地区と宇治地区でテレビ会議システムを使った遠隔講義の実演や、ひとつのワー

クステーションから複数のホストコンピュータへの同時アクセスの紹介、デジタル電話の展示など内容も多岐にわたり、これからのKUINSがどのように学内で利用されて行くのかが一目で分かるようになっています。

附属図書館では、会場に設置された図書館端末からKUINS、図書館用コンピュータを経由して学術情報センターに接続し、全国の大学図書館の所蔵する図書や雑誌の目録データベースを検索して、利用者の探したい文献がどの図書館にあるかを調査する業務を紹介しました。これまでの図書館の目録カードと違ってキーワード、出版社などの項目から探したり、複数の項目を同時に指定して条件を絞った検索ができることから、これからの図書館にとって重要な機能の一つとなるものです。

今後、大学図書館としても目録システムだけでなくさまざまな業務にこのKUINSを活用し、利用者である学生、教職員の方々に、より使い易

い便利な図書館サービスを提供していくことが必

要となっています。

「維新資料展—屏風・器物・額—」開催される

附属図書館では平成元年11月2日から12月9日までの期間、本館展示ホールにおいて秋期展示会「維新資料展—屏風・器物・額—」を開催しました。附属図書館で所蔵しています維新関係の資料は、その多くが品川弥二郎（1843～1900年）長州出身、明治時代の政治家。吉田松陰に学び尊攘倒幕運動に参加、松方正義内閣では内相を務めた。）が創設した尊攘堂旧蔵の収集品をまとめた「維新特別資料文庫」にあります。書籍のほか、屏風・掛

軸・帖・巻物・額・器物が含まれています。今回の展示会ではこれまで一堂に展示される機会の少なかった屏風・器物の全所蔵品とこれらと関係の深い額を展示しました。観覧者は総数1502名を数えこれまでになく盛況でした。今後も京都大学で所蔵する貴重な資料の展示会を予定していますので、その機会に出来るだけ多くの方々に鑑賞していただきたく思います。

平成元年度大学図書館職員長期研修に参加して

化学研究所図書掛長 小 菅 敏 明

7月24日から8月11日までの3週間の間図書館情報大学を中心に講義、実習、見学が行なわれた。参加者は、北は北海道から南は九州沖縄まで総勢41名で、その内訳は国立が34名、公立が2名、私立5名であった。

この研修会の目的は研修実施要項に「大学における教育・研究活動の急速な進展に伴い、学術情報の迅速かつ的確な提供が重要となっており、大学の中核的な情報資料センターとしての大学図書館が果たす役割は、ますます増大している。このため係長を中心とする中堅職員に対し、学術情報に関する最新の知識を教授し、職員の資質と能力の向上を図ることにより、大学図書館の情報提供サービス体制を充実する」とあるように、文部省の大学図書館政策の一環としての研修、即ち、これからの大学図書館のあり方、進むべき道を提示したものと思われる。研修は、この目的にそって、
1. 総論 2. 学術情報の流通とネットワーク活動 3. 資料の整備と相互協力 4. 学術情報セ

ンターの活動と大学図書館業務のシステム化

5. 二次情報データベースの形成と利用 6. 情報検索サービス 7. その他 以上7つの分野にわたって講義が行われ、これに加えて、機関の見学、最後に協同研究討議にて締め括られた。

この研修を終えて、私の頭の中の90%をしめたものがある。それは、情報化時代における大学図書館の対応が問われる時代になり、最近多くのところでコンピュータが導入されて来つつある。しかし、まだまだ問題が多くのかさされている。例えば、目録検索システムのものにしばっても、利用者が誰でもすぐ使えるシステムが導入されていないこと、データベース不足（過去のデータが入力されていない）のため、利用者は端末による検索とカード目録による検索をしなければならないなどの問題がある。

端末による目録検索は、果たして利用者にとって最良の検索システムなのであろうか。それは従来のカード目録検索ならば、探しているその情報